

二〇二〇年一月二二日

電車いま錦の山を窓に嵌め

せいじ

木枯らしが竹打ち鳴らす音止まず

なつき

ゴンドラの中も小春や観覧車

宏 虎

彼の世此の世行ったり来たり日向ぼこ

うつき

冬菜畑越しに海見ゆ島の宿

なつき

田仕舞の煙残して暮れにけり

うつき

足湯して見上ぐる紅葉空真青

かかし

夕時雨止めどしばらくひとつ傘

素 秀

モザイク画めきし芝生の散紅葉

こすもす

麻雀もカードも知らず葛湯吹く

よう子

冬の蠅日に広げたる地図の上に

なつき

涸滝に修験者杖をひと突きす

素 秀

目潰しの日矢が貫く照紅葉

よう子

痛み止め飲み忘れをり縁小春

かかし

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年一月二二日

秘仏訪ぬ裏六甲の冬紅葉

うつき

芭蕉忌や浪速の句碑に詣でもし

かかし

摘みこぼす零余子は土に紛れけり

うつき

住職の丹精といふ菊大輪

はく子

街路樹の紅葉黄葉あひ競ふ

わかば